

## 1 学期朝礼講話

おはようございます。

先週は南稜祭文化の部、いわゆる文化祭お疲れさまでした。素晴らしい文化祭でした。

当日玄関入口で市の職員の紹介で重いおもりを挙げた方もいたと思います。男子生徒は片手で、女子生徒は両手で挙げたと思います。実は彼の仕事はミュージカルの宣伝だったんですが、彼から「学校っていいですね」「文化祭っていいですね」と何度も聞かされ、羨ましがっていました。それはやはり皆さんの若いパワーがもらえるからだと思います。皆さんの先輩で市役所で働いている方は、母校で働きたい気持ちが大変強いです。大変人気のある職場です。

これは先生方も同じで、皆さんの若いパワーをいただいているので、実年齢より若く見られるようです。かくいう私は教員生活 42 年間のうち担任や副担任をやっていたのは 12 年余りで、後は教育委員会で働いたり、教頭や校長の仕事をしてきたので、あまり若いパワーをもらっていませんので老けて見えるようです。

さて、文化祭が終わると文化祭ロスで、授業中も集中できずぐったりしている方が増えてしまいます。こんな時、昔文化祭後に学校を去っていった教え子のことを思い出します。12 年間の担任生活で思い出すことは、学校を去っていった生徒たちがその後どうしているんだろうということです。今から 30 年以上前、私が 3 年生の担任の時、この当時文化祭は 9 月の秋分の日前後に行っていました。カレーハウスをテーマに教室内を階段状にし、ドアをはずして西部劇のような扉にして、カレーを売りました。誰もが楽しんでくれた文化祭で、よき思い出となりました。ところが、その後一人の女子生徒が不登校になりました。10 月になっても登校せず、こちらからも電話をかけたり、家庭訪問をしたりしました。クラス的女子生徒にもお願いして、皆で登校を働きかけしました。

実はその女子生徒は夏休みからコンビニのアルバイトをしていました。昔も今もアルバイトは許可制をとっていますが、その生徒は無断アルバイトで昼間コンビニに働いていました。そのうち夕方にシフトし、夜にシフトしました。時給も当然上がります。この夜のアルバイトのために生活リズムが昼夜逆転となりました。このため文化祭時はごまかせましたが、9 月後半の授業では睡眠不足で、午前中学校に来れず、次第に不登校となっていったようでした。私以上にクラス的女子生徒が動いてくれましたが、なかなか登校できず、11 月になり、「先生、これ以上無理です」という彼女の言葉に、自分も折れてしまいました。その後彼女の口から「自分に正直に生きたい」という言葉が出た時に、これは難しい問題だなと思いました。

「自分に正直に生きる」ということは大事なことですが、一歩間違えるとわがままな生き方につながりかねないということです。その時に、前年に亡くなった尾崎豊という歌手のことを思い出しました。尾崎は当時 10 代のカリスマと呼ばれ一世を風靡した歌手で、生きて

いれば今頃 60 歳ぐらいになっていると思います。彼自身が中学校や高校時代にバイクや煙草、飲酒で謹慎を繰り返していました。尾崎は大変頭のいい方で、有名進学校に通っていましたが、そこも中退してしまいます。音楽の世界があったので、彼はその思いを歌にぶつけました。社会や大人への反抗の歌です。それこそが「自分に正直に生きる」彼の姿でしたが、彼の社会への挫折が若者への共感を生むことになったのです。

「自分に正直に生きる」ということは大変なことです。社会で生きていく中で、どこかで折り合いをつけなくてはならないでしょう。それこそ今の 3 年生の皆さんが当てはまるでしょう。自分の生きたい道と親が願っている道は、必ずしも同じではないと思います。そんな時にどのように折り合いをつけるかでしょう。学校をやめていった生徒にはその後会っていません。もう年齢も 50 歳ぐらいになっているでしょう。

私から伝えたいことは、1 年生は 2 か月の高校生活を振り返って、これからどのように高校生活をおくるべきか改めて考えてほしいと思います。2 年生は部活動で 3 年生が引退して、新たな体制のもと、どのような運営をすべきか考える時でしょう。3 年生は進路です。いずれにせよ皆さんはどんな小さなことでもいいから目標を立ててほしいと思います。

文化祭も自分らで作りましたからこそ充実感を味わえたでしょう。これからの毎日をどのように楽しく過ごしていくかは皆さん次第です。是非明日、いや今日から目的意識をもって目標に向かって過ごしてください。

以上で校長講話とします。

(令和 8 年 6 月 5 日、朝礼)